

アコヤガイモニタリング調査結果

(調査日：令和3年11月18日)

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 調査結果の概要

- ・栄養の蓄積状態を示す貝柱のグリコーゲン含量は前月から増加し、南部海域の一部を除き、健康度の指標となる3.0%を上回った値であった。
- ・貝殻真珠層の褐変個体の出現率は、全漁場で低下し、外套膜の萎縮個体は確認されなかった。
- ・貝柱の赤変個体は、引き続き確認されなかった。
- ・水温は、前月の調査以降、やや高めから平年並みで推移している。
- ・真珠層の褐変個体の出現率が低下し、栄養の蓄積状況も回復している。
- ・今後、水温も低下していくことから、貝の状態が悪化する可能性は低いと考えられますが、引き続き貝の管理に注意してください。

2 調査結果一覧

漁場*1	貝の種類 (R2産)	グリコーゲン含量 平均値 (%)	a 値 平均値	赤変個体 (個)	褐変個体 出現率
北部	日中交雑貝*2	3.7(3.7)	0.2 (0.0)	0	0% [5]
中部①	日中交雑貝	5.1(1.6)	0.2 (0.0)	0	5% [40]
中部②	日中交雑貝	5.2(1.5)	-0.2 (0.2)	0	0% [10]
南部	日本貝	3.2(2.2)	-0.7(-0.4)	0	10% [15]
南部	日中交雑貝	2.5(2.2)	0.6(-0.5)	0	10% [30]
平均値		3.9(2.2)	0.0(-0.2)		

*1 漁場： 北部：三浦半島以北 中部：由良半島から三浦半島 南部：由良半島以南

*2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

() 内は昨年同月の値、[] 内は前月の値

3 調査方法

- ・4月から11月まで月1回（概ね第3週）、各漁場・種類毎に20個を調査。
- ・愛媛県漁業協同組合宇和島事業部が、調査日2日前を目処に上記漁場で採取して持ち込んだアコヤガイ母貝（2年貝）をサンプルとした。

4 調査項目および判断指標

- ・グリコーゲン含量 (%)：アコヤガイの栄養蓄積状態を示す指標で、数値が高いほど良好。
- ・a 値：閉殻筋（貝柱）の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。